



栗原小だより

～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

HP <https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/>



令和5年度10月号
令和5年10月2日

安心から生まれてくるもの

校長 古澤 健史

【大盛況!!!くりっこまつり】

2学期に入って約1ヶ月が過ぎました。9月は終盤になってようやく秋が来たのかなと思える気候になってきました。また、落雷や豪雨により、急遽下校を遅らせる状況にもなりました。お迎え等の対応をしていただいたり、下校の引率をしていただいたりした保護者の皆様、地域の皆様ありがとうございました。

朝、子どもたちの登校を見守っていると大きな段ボールや袋いっぱい何かの材料を抱えた児童を多く見かけました。各クラスで作るくりっこまつりのお店の準備のためにコツコツと材料を持ち寄って準備をしていたのだと思います。私がこの学校に赴任した時にまず目に入ったのが昇降口の柱に描かれた、子どもたちがお化け屋敷をしている絵です。すごく印象に残っています。その絵が描かれた頃から形を変えながら続いてきた行事なのだと思います。当日は、各クラスで魚すくいや輪投げなどの思い思いの出店を作り、前半後半で店番と縦割り遊びに行きスタンプラリーをするグループで交代して楽しみました。

くりっこまつりの開会式で、お店に来た栗っ子に「おもてなしの心」をもって、楽しませて欲しいこと、そのためには、それぞれ役割があり、学級の仲間と助け合ったり、協力し合ったりし合うことが必要だと話をしました。みんなが楽しんだ夏休みの地域のお祭りをお手本にしてくださいと伝えました。頼もしい「地域の一人」が育ってくれるのを楽しみにしています。

【防災訓練が生み出す安心感】

10月1日(日)に栗原小学校で栗原地区合同防災訓練が開催されました。お忙しい中、また様々なご予定がある中で時間を作ってご参加いただきありがとうございます。

今年は、関東大震災から100年ということで、様々なメディアで取り上げられ、

各地の博物館や郷土資料館では、関東大震災にまつわる企画展示が多く開催されていました。テレビや新聞でも震災の中で「朝鮮人が暴動を起こしている」「井戸に毒を投げ込んでいる」というデマや流言を信じた人々によって朝鮮の人や朝鮮の人と間違われた日本人が多数殺されたことが大きく報じられていました。これまでも歴史的な事実として知られていましたが、ここまで大々的に特集が組まれたのは初めてではないかと思います。

地震で家を失い、不安と絶望の中で伝わってくる恐ろしい情報にパニック状態となり、その真偽を確かめることなく自分たちの身を守るためと信じて、凶行に走った人々の様子が報じられました。このような心理状況は、今から7年前に起きた熊本地震で動物園からライオンが逃げ出したというデマが、この危険をみんなに伝えなければと、SNSを通じて瞬く間に拡散されていったことから想像できます。

デマに惑わされずに冷静に行動するためのヒントが、防災訓練にあると思います。被災して避難所に身を寄せた時に、周りに誰も知っている人がいないのと、いつもあいさつを交わす地域の仲間がいるのではその安心感は全く変わってくると思います。もしものときに備えて準備している人がいるということを確認できることは大きな安心だと思います。本校の4年生は、埼玉県や新座市、地域はどのような対策をとっているのか、自分たちが被災した時にどうするのか、そのときに備えてどうするのか、社会科で学習しています。

昔、黒目川が氾濫した時に一緒に助け合った仲間とは今でも仲良くしていて、交流がありますと学校応援団会議の場で話してくださいました。栗原1丁目町会の斎藤会長の言葉に、栗原地区の結束の強さを感じ、いつも学校を支えてくださることを心強く感じました。